

心で満点

南小だより

二本松市立二本松南小学校 令和5年7月20日

1学期も本日限りとなりました。子どもたちは夏休みを前に期待と喜びがあふれているようです。夏休みに向けて、安全な生活ができるよう指導をしましたが、ご家庭でも声をかけてください。

長い夏休みに入りますが、2学期には、また元気な子どもたちに会えることを楽しみにしております。

「心で満点」の姿

- ・ 6年生が、ボランティアで朝清掃を実施しています。
- ・ 「しあわせのバケツ」運動で、全校生一人一人が友達にしてもらってうれしかったことを紙に書いて掲示しています。
- ・ 業間や昼休みなど上級生が下級生の面倒をみながら一緒に遊ぶ姿が見られました。
- ・ 修学旅行や宿泊活動で、節度ある態度で生活し、称賛されました。
- ・ 運動会では、実行委員会の子どもたちが計画、運営までがんばりました。

自分の責任とは？

毎日の生活の中で、子どもたちはさまざまなトラブルに遭遇しています。故意であったり、偶然であったり、当事者であったり、傍観者であったり等々。トラブルの原因について子どもたちに話を聞くと、ほとんどが自分の責任ではないといった答え方をします。当然、叱られるのが嫌だという心理からそういう受け答えになるのは想定されますが、自分の行いに責任をもつことは、とても大切なことだと考えています。南小の事例ではないですが、こんな事例があります。学級担任に提出するプリントを忘れてしまい、ランドセルを探している時に「どうしてお母さんはランドセルに入れるの忘れたんだろう」という言葉が聞こえてきました。自分の責任ではなく、母親の責任であるように伝えたかったのだと思います。子どもたちが、自分の責任を他人に転嫁し、その場をやり過ごすことは、とても怖いことです。自分の学力が思うようにならないこと、友達がうまくできないこと、忘れ物が多いことなどすべて自分の責任ではなく、他人のせいだと考えたら、集団生活の中では苦勞すると思います。しかも、他人の中には、我々教師はもちろん、保護者もその範疇に入ります。

発達段階に応じ、自分の行動に責任をもつ意識を育てていくことが重要です。長い夏休みに、自分の行動に責任をもたせるような声かけもぜひしてみてください。